

日本語における複合動詞の学習習得

クルバノワ・グルチェフラ
タシケント国立東洋学大学

要旨：日本語における複合動詞は構成的に大きく 2 つのグループに分けられる。それは「落ち着く」「でき上がる」のような「動詞連用形+動詞」という形式と「読んでみる」「飲んでしまう」のような「動詞て形+動詞」である。前者が複合動詞、後者が補助動詞である。

世界的に見ると、このような 2 つ動詞の連結表現は東アジアから南アジア、そして中央アジアの一部にかけての地域に広く分布しているが、多くの言語はテ形に当たる接続動詞を使っている。前の動詞が連用形に相当する「動詞+動詞型」の複合動詞は、東アジアに限られるようで、影山 (2014) は日本語の複合動詞は東アジアの他の言語と比べて多様で特徴的であることを指摘している。実際、日本語には 2,700 語以上も複合動詞があり、日常的に使用されている。

使用頻度の高い複合動詞は、日本語教育では習得が必要であるにもかかわらず、学習困難であることが指摘され (陳 2007; 何 2010; 松田 2004)、その理由の 1 つとして、複合動詞を体系的に学ぶ機会が少ないことがあげられている。また、ウズベキスタンの東洋学大学の日本語学習者は上級レベルでも複合動詞より単純動詞を使うことが目立っている。そこで筆者は東洋学大学の日本語学習者は日本語の複合動詞の意味と用法をどのぐらい習得しているのかに興味を持ちアンケート調査を行った。その結果によると学習者は「複合動詞」についてよく知っていると思い込んでいるが、実際に使う場合は意味や使い方や使う場面をよく知らないため、使用を回避し、複合動詞より単純動詞を使う傾向が多いことが明らかになった。特に、東洋学大学の 3・4 年生は論文やレポートで使わなければ、会話などではあまり使わないことが明確になった。

そこで筆者は日本語研究の専門家だけでなく、外国人日本語学習者を含む一般の利用者も使用できる「複合動詞レキシコン」というオンラインデータベースの使い方や検索方法を紹介することを目的とする。

Абстракт: В японском языке сложные глаголы* (в большинстве случаев состоят из двух глаголов) по своей структуре делятся на 2 большие группы. В сложные глаголы входят такие формы как: «успокаиваться», «быть готовым» (конъюнктивная форма глагола (первая основа глагола) +глагол) «попробовать выпить», «попробовать прочесть» (глагол в форме Те+глагол) и т.д. Первая группа именуется как сложные глаголы, а вторая как вспомогательные.

Если рассматривать в мировом масштабе, то выражения с соединением двух глаголов хоть и широко распространены от Восточной до Южной Азии, включая часть Средней Азии, но все же в большинстве языков используются соединительные глаголы, соответствующие форме «Те». Первая группа сложных глаголов, соответствующая по соединительной форме «конъюнктивная форма глагола (первая основа глагола) +глагол», по-видимому используется лишь в пределах Восточной Азии. Кагеяма (2014) сравнил сложные глаголы японского языка с другими Дальневосточными языками, в большинстве случаев указывает на их уникальность. Нужно отметить, в японском языке существует более 2700 сложных глаголов, которые используются в повседневной жизни.

Несмотря на то, что часто-используемые сложные глаголы являются важным аспектом

в изучении японского языка, Чин (2007), Нан (2010), Мацуда (2004) указывают на то, что они представляют большое затруднение для обучающихся, в связи с редкой возможностью систематического изучения этих образований. Кроме того, можно заметить, что даже студенты продвинутого уровня Института Востоковедения Узбекистана, в своей речи чаще используют простые глаголы, нежели сложные. Будучи заинтересованным в том, насколько студенты Института Востоковедения, изучающие японский язык, понимают смысл и использование сложных глаголов, автор решил провести анкетирование. По его результатам стало известно, что студенты думая, что хорошо понимают «сложные глаголы» заблуждались, т.к. во время непосредственного использования из-за незнания смысла и места применения, они в большинстве случаев использовали простые обороты. В частности, можно заметить, что несмотря на то, что студенты 3-4 курсов Института Востоковедения не редко используют в своих докладах и дипломных работах данные виды глаголов, в разговорной речи их применение почти не встречается.

Таким образом, автор ставит для себя цель ознакомления со способом анализа и использования онлайн базы данных «лексики сложных глаголов», которыми могут пользоваться не только специалисты, но и обычные иностранцы изучающие японский язык. (*Сложные глаголы это стоящие рядом два глагола, которые имеют общее чтение)

1. 背景説明・動機

各国の言語には、それぞれ特有の表現があることはよく知られている。日本語では物事を表す時、話し言葉でも、書き言葉でも、動作や状態を表す動詞が実に豊富に使われている。その中でも、1つの特質となっているのが動詞と動詞を結び合わせた複合動詞による表現である。日本語における複合動詞は構成的に大きく2つのグループに分けられる。それは「落ち着く」「でき上がる」のような「動詞連用形+動詞」という形式と「読んでみる」「飲んでしまう」のような「動詞で形+動詞」である。前者が複合動詞、後者が補助動詞である。

世界的に見ると、このような2つ動詞の連結表現は東アジアから南アジア、そして中央アジアの一部にかけての地域に広く分布しているが、多くの言語はテ形に当たる接続動詞を使っている。ウズベク語もそのような言語の1つである。前の動詞が連用形に相当する「動詞+動詞型」の複合動詞は、東アジアに限られるようで、影山（2014）は日本語の複合動詞は東アジアの他の言語と比べて多様で特徴的であることを指摘している。実際、日本語には2,700語以上も複合動詞があり、日常的に使用されている。

日本人は何の苦もなく数多くの複合動詞を使っているが、日本語を第二言語として勉強している学習者にとってそれを理解することは容易なことではない。というのは個々の単純動詞が既習語であっても、それが合成する全体の意味が理解できるとは限らないからである。使用頻度の高い複合動詞は、日本語教育では習得が必要であるにもかかわらず、学習困難であることが指摘され（陳 2007; 何 2010; 松田 2004）、その理由の1つとして、複合動詞を体系的に学ぶ機会が少ないことがあげられている。

筆者は現在複合動詞について研究を行っているが、かつて学習者として日本語を学習していた時、複合動詞に対して、様々な疑問を抱いていた。複合動詞に対する疑問は決して筆者1人だけの問題ではなく、日本語学習者、とりわけ中級や上級の学習者ならおそらく誰でも経験したことがあるだろう。筆者（2013）は大学4年生の時、「日本語複合動詞における意味的な考察」とい

うテーマで卒論を書き、学習者にとって日本語複合動詞の習得問題についてアンケート調査を行った。その調査結果では、複合動詞のどの点が困難であろうかということについて以下のことが明らかになった。

- 2つの言葉を組み合わせると他の意味になること
- 全部の複合動詞を知らないで、新しい複合動詞に出会ったら困る
- 複合動詞の種類が多いので、使うのは難しい
- 動詞と複合動詞の意味の違いや使い方を知らないで使う時不安を感じる
- 複合動詞はいくつかの意味を持っているのが困らせる
- あまり難しくないが、動詞と動詞をくっ付ける時、間違えてしまうなどである。

以上を通して、日本語学習者が困っている点を3つに分けられる：

1. 意味
2. 結合条件
3. 使う場面

そして学習者は「複合動詞」についてよく知っていると思い込んでいるが、実際に使う場合は意味や使い方や使う場面をよく知らないため、使用を回避し、複合動詞より単純動詞を使う傾向が多いことが明らかになった。特に、東洋学大学の3・4年生は論文やレポートで複合動詞を使わなければ、会話などではあまり使わないことが明確になった。

そこで本稿ではまず、複合動詞に関する先行研究を更に教育の観点から考察し、次に「複合動詞レキシコン」というオンラインデータベースの使い方や検査方法を紹介することで複合動詞の習得をより効果的にするための授業実施方法を提案し、まとめたいと思う。

2. 日本語複合動詞に関する研究

本稿でいう複合動詞とは、「書き込む、取り扱う」のように前の動詞（以下「前項動詞」と記す）の連用形にもう1つの動詞（以下「後項動詞」と記す）が結合したものを指す。

現在まで複合動詞について、言語学や日本語学や対照言語学の角度からたくさんの研究が行なわれてきた。影山（1993）は、語形成の観点から複合動詞を「統語的複合動詞」と「語彙的複合動詞」に分類している（注1）。統語的複合動詞とは、前項動詞が後項動詞の主語や目的語となる、つまり補文関係をとる複合動詞のことである。例えば「働きすぎる」は「働くことが過ぎる」と言い換えられ、前項動詞が後項動詞の主語になっている。このタイプの後項動詞は、比較的自由にどのような前項動詞とも結合することから造語力が強い。例えば「始める」は、「飲む」「作る」「勉強する」と結びついて「飲み始める」「作り始める」「勉強し始める」という複合動詞になる。このような統語的複合動詞を形成する後項動詞の数は限られていて、影山（1993）は27語をあげ、姫野（2001）はそれに3語を加え30語としている（注2）。

一方、語彙的複合動詞には一語としてのまとまりが強いという特徴がある（影山1993）。統語的

複合動詞後項は比較的制限を受けずに複合動詞を形成するのに対し、語彙的複合動詞後項はどのような動詞にも結合するわけではない。例えば「思い知る」は言えるが、「考え知る」は使われない。さらに語彙的複合動詞は、意味の面で制限があり、2つの動詞の組み合わせから意味を類推することが難しい場合が多い。統語的複合動詞「飲み始める」は「飲むことを始める」を意味し、飲む対象は水やジュースなどどのような液体でもよいが、語彙的複合動詞「飲み歩く」は「何軒もの店を回って飲む」ことで、「飲む」のは酒類に限られている。このように語彙的複合動詞には意味の習慣化が見られる。

また、語彙的複合動詞の組み合わせについて影山（1993）は「他動性調和の原則」という制約があることを指摘している。動詞はそれが取る項のタイプから、他動詞、非能格自動詞、非対格自動詞の3種類に分けられ、語彙的複合動詞は外項を取る動詞（他動詞と非能格）か、外項を取らない動詞（非対格自動詞）によって作られるのである。

他方、松本（1998）は、他動性調和の原則に代わるものとして「主語一致の原則」を提案している。主語一致の原則とは、他動性調和の原則より緩いもので、前項動詞と後項動詞の主語が同じでなければならないというものである。例えば「食べ散らかす」は言えるが、「食べ散らばる」は言えない。「食べ散らかす」では、食べる人と散らかす人が同じであるが、「食べ散らばる」では「食べる」と「散らばる」の主語が一致していないためである。

このような複合動詞の分類や結合条件などの研究とは異なり、教育の観点からの研究もある。松田（2004）は、大学院で日本語教育を専攻する留学生を13名対象に「複合動詞のどのようなところが難しいと感じているか」についてアンケート調査を行った。松田の調査結果では、「複合動詞の結合条件」、「単純動詞と複合動詞の使い分け」、「習得方法」の3点が学習者にとって習得の困難点として取り上げられた。田中（2004）は森田（1991）の調査結果に基づいて現在日本語動詞の約40%が複合動詞だと指摘している。確かに、複合動詞が頻繁に使用されている環境は新聞、雑誌などのような日本語母語話者の日常生活に欠かせないものである。学習者が日本語をよりうまく使いこなすためには、複合動詞を理解する必要がある。言い換えれば、学習者が複合動詞がうまく使えないということは日本語母語話者が日常生活で使っている日本語を理解するのに支障が出ることを意味する。さらに、田中（1996、2004）の指摘どおり、複合動詞は日本語の教科書の学習項目としてほとんど取り上げられていないため、教科書分析を行っても使用実態が解明できない。以上のことから、学習者が作文や、日常会話の中でうまく複合動詞を使うことはあまり期待できないだろう。それで筆者が、何をすれば学習者が複合動詞の使用をよりうまく取得し、使いこなすのかについて考察した。

先行研究は、学習者が複合動詞を理解するだけでなく運用できるよう指導することを促している。学習者が複合動詞を適切に運用するためには、複合動詞の意味を理解するだけでなく、複合動詞が用いられる文型、文型中の複合動詞の出現形式、複合動詞と共起する語も把握する必要がある。国立国語研究所のサイト（日本語サイト：<http://vvlexicon.ninjal.ac.jp>）で公開している「複合動詞レキシコン」では、複合動詞後項を入れる際、例文がいくつか提示されている。例文を活用することで、学習者の運用能力を高めることができると思われる。

そこで筆者は日本語研究の専門家だけでなく、外国人日本語学習者を含む一般の利用者も使用できる「複合動詞レキシコン」というオンラインデータベースの使い方や検索方法を紹介するこ

とを目的とする。

3. 「複合動詞レキシコン」オンラインデータベース

本データベースは、国語研の基幹型共同研究プロジェクト「日本語レキシコンの文法的・意味的・形態的特性」の一環としてプロジェクトリーダー（影山太郎）と PD フェロー（神崎享子）が言語学的な観点から基礎データを作成し、Lago 言語研究所（赤瀬川史朗）がオンライン検索システムとして構築したものである。

複合動詞の仕組みが分かるような意味定義と用例があげられ、ネイティブスピーカーが作成した英語訳、中国語訳、韓国語訳を表示するので、外国人日本語学習者も楽に使えると思われる。

検索は、複合動詞全体検索、前項動詞検索、後項動詞検索だけでなく、ひらがな、漢字交じり表記、アルファベット表記のいずれでも入力が可能なので便利である。例えば「書き込む」を調べるときは、「書き込む」、「かきこむ」、「kakikomu」のいずれかを入力する。入力できたら、エンターキーを押すか右の[検査]ボタンをクリックする。クリックすると、右の本文リストに「書き込む」の内容が表示される。（表 1）

また、自他の分類から検索することもできる。複合動詞レキシコンでは、自他を次の 3 つの種類に分類している：

- ①**自動詞**➡ヲ格をとらない動詞（「道を歩く」のように移動経路のヲ格をとる場合は自動詞）
- ②**自動詞・意志**➡意志をもつ名詞を主語にとる自動詞
- ③**他動詞**➡「N ガ (N ニ) N ヲ」の格パターンをとる動詞

自他の分類から検索するときは、見出し語リストの**自他ヘッダー**をクリックすると、**自他によるフィルタ**画面が表示される。それぞれの自他の種類の右には該当する見出し語の件数が表示される。特定の種類の複合動詞を表示するときは、表示したい種類のラジオボタンをクリックする。クリックすると同時に、その種類に該当する複合動詞が表示される。表 2 は、[自動詞・意志]をクリックした例である。

次は、語構造から検索する方法である。複合動詞レキシコンでは、複合動詞を語構造の観点から次の 5 つの種類に分類している：

- ①**VV** 主語や目的語などをとる通常の動詞の組み合わせ
- ②**pV** 前項が接頭辞化し、その後ろに通常の動詞が来るもの
- ③**Vs** 前項は通常の動詞であるが、後項が補助動詞化しているもの
- ④**V（一語化）** 前項と後項の関係が分析的にとらえられないもの
- ⑤**逆形成** 名詞から動詞が作られたと考えられるもの

語構造から検索するときは、見出し語リストの**〔語構造〕ヘッダー**をクリックすると**語構造によるフィルタ**画面が表示される。それぞれの語構造の種類の右には該当する見出し語の件数が表示され、特定の種類の複合動詞を表示するときは、表示したい種類のラジオボタンをクリックする。

クリックすると同時に、その種類の複合動詞が表示される。図 3 は、[VV] をクリックした例である。

NLB を使って用例を調べるとき：

「複合動詞レキシコン」では見出し語の本文の右上に NLB というボタンがあるときは、オンラインコーパス検索ツール NLB (NINJAL-LWP for BCCWJ) を利用して、『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』の用例を検索することができる。NLB ボタンをクリックすると、NLB のその複合動詞の見出し語のページを別ウィンドウまたはタブで開き、そこでは、更に詳しい例文とその例文の出典も見られるのでかなり便利である。

本サイトを日本語学習者に紹介し、授業のカリキュラムにも適応すれば日本語学習者は複合動詞に出会ったとき正確な意味や使い方を利用しながらだんだん身に付けていくのではないだろうか。本サイトは日本語で使われている 2700 語以上の複合動詞を含めているので、日本語学習者が辞書にも載っていない特に語彙的な複合動詞の意味と使い方を楽に調べられ単純動詞より複合動詞を使うチャンスが増えるのではないと思われる。

4. まとめ

本稿では、複合動詞および複合動詞習得に関する先行研究を踏まえ、日本語学習者が複合動詞を使用するときの困難点やその理由を明らかにしながら解決方法を探ろうとした。筆者が行われたアンケート調査の結果によっては日本語学習者の困っている点として複合動詞の意味と結合条件と使う場面ということが明らかになった。

複合動詞が語形成の観点から「統語的複合動詞」と「語彙的複合動詞」に分類され、学習者にとって「語彙的複合動詞」の方が習得にくいと見なされている。

本稿では、国語研の基幹型共同研究プロジェクト「複合動詞レキシコン」というオンラインデータベースを紹介し、複合動詞の効果的な検査法を紹介した。本サイトでは 2700 の複合動詞、特に「語彙的複合動詞」があげられ、複合動詞の意味だけでなく文章での使い方、語構造、自他の分類も含まれ、複合動詞を様々な方法で検査することが可能になった。中央アジア諸国日本研究カンファレンスで「複合動詞レキシコン」を日本語教育に運用する方法を参加者と共に新たに考えたい。

参考文献

- 国立国語研究所 (2015) 『複合動詞レキシコン』 (<http://vvlexicon.ninjal.ac.jp>)
- 寺田裕子 (2001) 「日本語の二類の複合動詞の習得」『日本語教育』109, 20-29.
- 新美和昭、山浦洋一、宇津野登久子 (1993) 『外国人のための日本語例文・問題シリーズ 4 複合動詞』 荒竹出版
- 姫野昌子 (1999) 「複合動詞の構造と意味」 ひつじ書房
- 松田文子 (2004) 『日本語複合動詞の習得研究』 ひつじ書房
- 松本曜 (1998) 「日本語の語彙的複合動詞における動詞の組み合わせ」『言語研究』114, 73-83.

注

1. 統語的複合動詞と語彙的複合動詞は、以下の基準で区分できる。代用形「そうする」との置換、サ変動詞の使用可否、主語尊敬語表現「お...になる」の可否、前項動詞の受身形の可否、重複構文の可否。統語的複合動詞は上記の基準が可能であるが、語彙的複合動詞は不可能である（影山 1993 p.80-92）。

2. 統語的複合動詞を形成する後項動詞 30 語は以下の通りである（影山 1993 p. 96; 姫野 2001, p.11）。

始動：かける、だす、始める、かかる継続：まくる、続ける

完了：終える、終わる、尽くす、きる、通す、抜く、果てる

未遂：損なう、損じる、そびれる、かねる、遅れる、忘れる、残す、誤る、

あぐねる、損ねる過剰行為：過ぎる再試行：直す

習慣：つける、慣れる、飽きる相互行為：合う可能：得

添付

出典：国立国語研究所（2015）『複合動詞レキシコン』（<http://vvllexicon.ninjal.ac.jp>）

図 1

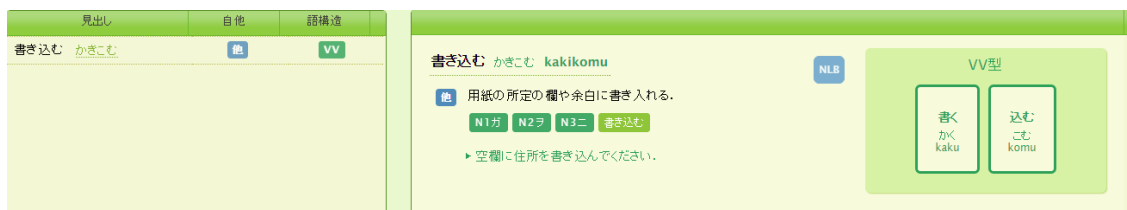


図 2

見出し	自他	語構造
上がり込む あがりこむ	自・他	Vs
遊び暮らす あそびくらす	自・他	VV
遊び戯れる あそびたわむれる	自・他	VV
当たり散らす あたりちらす	自・他	Vs
暴れ込む あばれこむ	自・他	VV
暴れ回る あばれまわる	自・他	Vs
甘え掛かる あまえかかる	自・他	VV

図 3

見出し	自他	語構造
仰ぎ見る あおぎみる	他	VV
明け払う あけはらう	他	VV
明け渡す あけわたす	他	VV
嘲り笑う あざけりわらう	他	VV
与り知る あずかりしる	他	VV
預け入れる あずけいれる	他	VV
遊び暮らす あそびくらす	自・他	VV